

# 米軍再編と世界の中の厚木基地

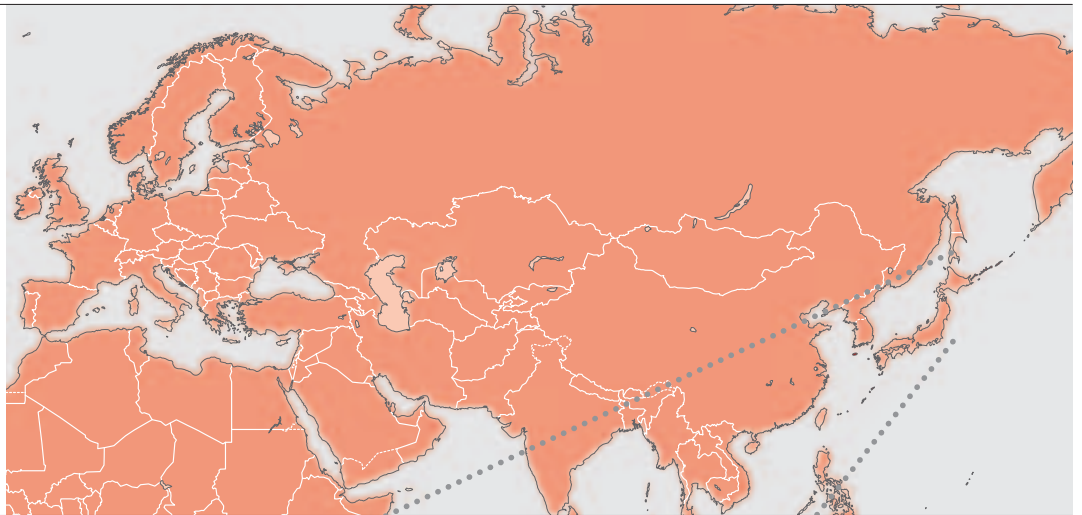
現在、米国は、テロなどの新たな脅威に即応できる態勢づくりなどのため、世界に展開する米軍の再編を進めています。在日米軍再編は、この世界規模で進められる米軍再編の一環であり、厚木基地も同再編と深く関わっています。

ここでは、世界から厚木基地にまでも及ぶ米軍再編の状況を見ていきます。

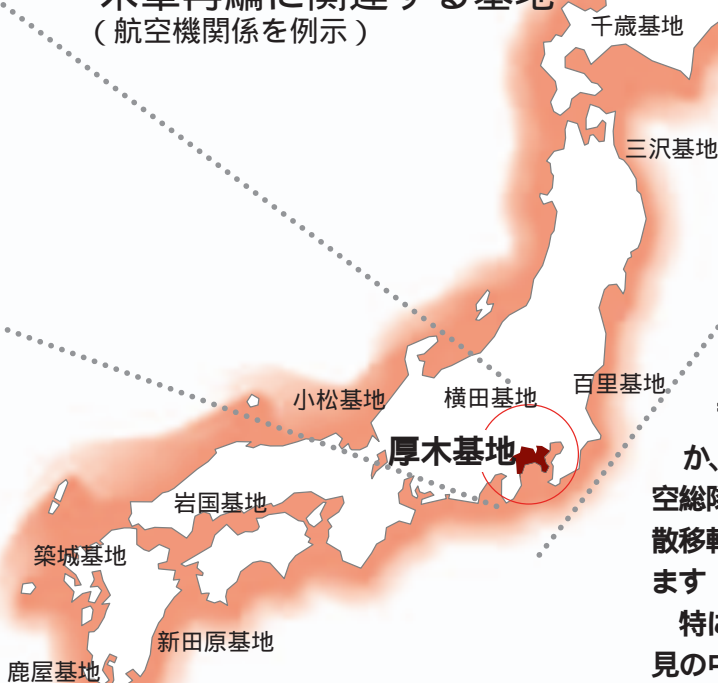
## 世界規模で進む米軍再編

米軍は、ヨーロッパやアジア太平洋地域など世界中に展開しています。

米軍再編は日本に駐留する在日米軍を含め、世界規模で進められています。



## 米軍再編に関連する基地 (航空機関係を例示)



## 在日米軍の再編

日米両政府は、在日米軍の再編について、「抑止力の維持」と「地元の負担軽減」を柱に協議を進めてきました。その結果、「地元の負担軽減」について、厚木基地の空母艦載機移駐のほか、再編協議において最大の課題とされた沖縄県の普天間基地の移設・返還や、在沖縄兵隊の兵力削減、司令部のグアム移転などが合意されました。このほか、空中給油機の鹿屋基地への訓練移転、航空自衛隊航空総隊司令部の横田基地への移転や米軍機による訓練の分散移転など、日本全国にわたり様々な内容が合意されています

特に厚木基地については、きこうまきみ久間章生防衛庁長官が就任会見の中で、「沖縄だけでなく厚木にしても騒音問題を減らせるならばいいチャンスであり、前向きにとらえていきたい」と述べています。

こうした在日米軍再編については、すべての再編案が実施されるよう「再編実施のための日米のロードマップ」において、「個別の再編案は統一的なパッケージとなっている」としています。

# 厚木基地

人口密集地に所在し、長年にわたり深刻な航空機騒音被害を及ぼしている厚木基地については、次のとおりの内容が示されました。



厚木基地

- ・空母艦載ジェット機などを厚木飛行場から岩国飛行場へ移駐する
- ・海上自衛隊航空機の一部を岩国飛行場から厚木飛行場へ移駐する



岩国基地

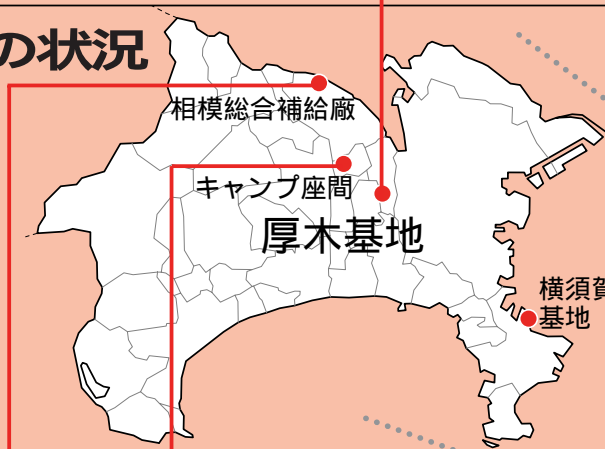
「再編実施のための日米のロードマップ」(抜粋)  
厚木飛行場から岩国飛行場への空母艦載機の移駐

- ・第5空母航空団の厚木飛行場から岩国飛行場への移駐は、F/A-18、EA-6B、E-2C及びC-2航空機から構成され、(1) 必要な施設が完成し、(2) 訓練空域及び岩国レーダー進入管制空域の調整が行われた後、2014年までに完了する。
- ・厚木飛行場から行われる継続的な米軍の運用の所要を考慮しつつ、厚木飛行場において、海上自衛隊EP-3、OP-3、UP-3飛行隊等の岩国飛行場からの移駐を受け入れるための必要な施設が整備される。
- ・恒常的な空母艦載機離発着訓練施設について検討を行うための二国間の枠組みが設けられ、恒常的な施設を2009年7月又はその後のできるだけ早い時期に選定することを目標とする。

## 在日米軍再編にかかわる県内の状況

在日米軍再編の最終的な報告である「再編実施のための日米のロードマップ」では、厚木基地や、相模総合補給廠、キャンプ座間についても再編の対象となっています。

これと並行して協議されていた、横須賀港を事実上の母港とする空母キティホークの退役や後継艦についても昨年発表されました。



### 空母キティホークの後継艦

米国は、横須賀港を事実上の母港としている通常型空母キティホークを2008(平成20)年に退役させ、後継艦として原子力空母ジョージ・ワシントン<sup>しょう</sup>を配備すると発表しました。



原子力空母  
ジョージ・ワシントン  
(U.S.Navy)

### キャンプ座間

- ・在日米陸軍司令部の改編、一部土地の返還など



キャンプ座間メインゲート

### 相模総合補給廠<sup>しょう</sup>

- ・在日米陸軍司令部の改編に伴う施設の設置、一部土地の返還など

市は、厚木基地に起因する航空機騒音問題の解消に向け、これまで全力で取り組んできました。そうした中、在日米軍再編にかかる空母艦載機移駐の合意により、厚木基地の騒音問題は新たな局面を迎えようとしています。

市は、一日でも早く騒音被害がなくなるよう、空母艦載機移駐の早期実現を日米両政府に強く求めていくとともに、航空機騒音問題の抜本的な解決に向けたさらなる取り組みを進めていきます。

問い合わせは、市役所基地対策課基地対策担当 ☎(260)5310、✉kichiへ。